

「HAKUI キッズイングリッシュキャンプ」

- 1 趣旨 仲間との英語を用いた体験活動を通して、楽しく音声や基本的な表現に慣れ親しむ。また、安心できる温かい環境の中で、自分の考えや気持ちを英語で表現し、積極的にコミュニケーションを図る素地となる能力の育成を図る。これらのことが自信となり、日常生活において主体的に英語でコミュニケーションを図ることにつなげることをねらいとする。

2 日程・内容

(1) 期日・参加者等 ※複数校で、5・6年生に分かれて合計 4 回実施

	期日	参加校	児童	国際交流員・ALT	ボランティア
第1回	5月27日(月)・28日(火)	羽咋小・邑知小(6年生)	62・20名	6・2名	0名
第2回	6月 3日(月)・4日(火)	粟ノ保小・瑞穂小 西北台小(6年生)	16・29・7名	4・2名	1名
第3回	6月10日(月)・11日(火)	粟ノ保小・瑞穂小 西北台小(5年生)	18・30・19 名	7・2名	0名
第4回	6月25日(火)・26日(水)	羽咋小・邑知小(5年生)	69・35名	4・2名	0名

(2) 活動内容

<5年生>

1日目		2日目	
10:00	Opening ceremony【1時間】 Staff Introduction(スタッフ紹介) School Introduction(学校紹介)	6:30	起床 洗面 掃除
11:00	アイスブレイク【1時間】 「仲間と共に NOTO ジョイフレンド」	7:00	朝のつどい
		7:30	朝食(食堂)
		8:30	宿舎点検
12:00	昼食(食堂)	9:00	「野外炊事で世界を味わう」 【4時間】 《Presenting Recipes》
13:00	「世界で遊ぼう」【3.5時間】 《Enjoy the game!》	13:30	振り返り
16:30	荷物移動	14:00	Closing ceremony
17:00	夕べのつどい	14:30	帰路
17:30	夕食(食堂)		
18:45	「現地の食材を買い物しよう」 【1.5時間】《Shopping Games》		
20:30	入浴		
21:30	就寝準備		
22:00	就寝		

17:30	入浴
18:30	夕食
19:45	「現地の食材を買い物しよう」 《Shopping Games》
21:30	就寝準備
22:00	就寝

第4回のみ、研修;支援団体との調整のため、上記日程で実施

<6年生>

1日目		2日目	
10:00	Opening ceremony【1時間】 Staff Introduction (スタッフ紹介) School Introduction (学校紹介)	6:30	起床 洗面 掃除
11:00	アイスブレイク【1時間】 「仲間と共に NOTO ジョイフレンド」	7:00	朝のつどい
		7:30	朝食(食堂)
		8:30	宿舎点検
12:00	昼食(食堂)	9:00	「野外炊事で世界を味わう」 【4時間】《Presenting Recipes》
13:00	「現地の食材を探しに世界へ」 【3.5時間】 《Entry to a country check》	13:30	振り返り
16:30	荷物移動	14:00	Closing ceremony
17:00	夕べのつどい	14:30	帰路
17:30	夕食(食堂)		
18:45	「世界で遊ぼう」【1.5時間】 《Become a game master!》		
20:30	入浴		
21:30	就寝準備		
22:00	就寝		

1日目

○Opening Ceremony／Staff Introduction／School Introduction (5・6年生共通)

児童が英語を使って司会を行うとともに、号令や児童代表によるあいさつも、日頃の授業で使っている表現を用いて対話的に行った。スタッフの自己紹介後、担当からイングリッシュキャンプの3つのキーワード「自分から」「仲間と協力」「英語で表現」の大切さを伝え、どんなイングリッシュキャンプにしたいか、どんな力をつけてほしいかを共有した。学校紹介では、Smile, Clear Voice, Big Voice を心掛け、内容が伝わるようにGestureをつけ、Eye Contactで相手意識を持ってプレゼンする姿が圧巻だった。スライド等趣向を凝らした学校紹介だった。聞き放しではなく、児童が「自分から」質問したり、回答したりする等対話的な場面がたくさん見られた。



○アイスブレイク「仲間と共に NOTO ジョイフレンド」(English Version) (5・6年生共通)

今年度から、活動プログラムで導入している仲間づくり活動「NOTO ジョイフレンド」を、English Version にアレンジして実施した。英語でアウトプットしながら身体表現する点、仲間と声を合わせたり、動きを合わせたりする点で他校の児童との距離がぐっと縮まった。英語を使って仲間づくりをするという活動は有効であった。



野外炊事をするために、3つのキーワードのもと、ストーリー性のある活動の展開を示したことは、班の仲間と協力する必要感を生み、英語で表現することへのチャレンジを促す仕掛けになっていた。

○Activity I-1 「現地の食材を探しに世界へ～Entry to a country check～」(6年生)

野外炊事の食材や調理器具等を買いに世界へ出かけるという設定で、国際交流員等が入国審査員になったり、店の店員になったりして、入国チェックしたり、ドルで販売したりした。買い物では、英語で表現できるように、買い物前に交渉や表現を班で練習したり、ゲームやライティングを通してアウトプットしたりした。国際交流員とのコミュニケーションから、児童は各国の観光名所や食べ物を聞きとり、さらに質問を重ねて、外国の文化について理解を深めようとしていた。



○Activity I-2 「世界で遊ぼう ～Become a game master!～」(6年生)

外国の伝統的な遊びを体験することを通して、国際交流員や参加者同士のコミュニケーションを図るとともに、各国の文化について理解を深めることができた。事前に国際交流員から3文程度のルール説明を準備してもらった。そのうえで、班の代表児童が、国際交流員から、体験するゲームの遊び方を聞き取り、内容を自分のチームに遊び方を説明することができた。「英語で表現」を意識し、聞き取った英語を使って説明する姿が多く見られた。また、班の仲間と作戦を立てたり、相談したりして、ミッションをクリアするにはどうすればよいのか、考えながら活動を展開することができた。



○Activity I-1 「世界で遊ぼう ～Enjoy the game!～」(5年生)

外国の伝統的な遊びを体験することを通して、国際交流員や参加者同士のコミュニケーションを図るとともに、各国の文化について理解を深めることができた。事前に国際交流員から3文程度のルール説明を準備してもらった。そのうえで、班のメンバーが、国際交流員から、体験するゲームの遊び方を聞き取るとともに、体験を通して遊び方を理解していった。理解した遊びを他のメンバーに伝えて、遊びを展開することができた。「英語で表現」を意識し、聞き取った英語を使って説明する姿が多く見られた。



班で歌う英語の歌を決め、遊びのルールの中で位置づけるなど、主体的に活動することができた。

○Activity I-2 「現地の食材を買い物しよう～Shopping Games～」(5年生)

野外炊事の食材や調理器具等を買いに、国際交流員が開く店に行き、英語や動作を使って買い物した。買い物では、英語で表現できるように、買い物前に交渉や表現を班で練習したり、ゲームを通してアウトプットしたりした。児童は、各国の観光名所や食べ物について、国際交流員から聞きとり、外国の文化について理解を深めようという姿が見られた。



2日目

○Activity I-3 「野外炊事で世界を味わう～Presenting Recipes～」(5・6年生共通)

野外炊事「バターチキンカレーライス」を作るために、「かまど係」「お米係」「野菜係」に分かれて調理した。全体説明では、職員が「Cut」「Put on」「Set fire」といった簡単な英語を用いて手順を説明したり、「How many?」のような既習表現、「Please check～」「Please lend me～」といった未習表現を示したりした。班ごとに国際交流員についてもらい、手順や表現で困ったら英語で尋ねるということを確認して活動を展開した。どの班も班で協力しながら、できるだけ英語を使って作るという意識が高かった。また、国際交流員の国の食文化について、スライドや動画、写真等で聞き取り、質問していた。



○Closing Ceremony (5・6年生共通)

児童が英語を用いて司会を行った。参加者、国際交流員等で振り返りを行い、お互いに感想を伝え合った。主担当から伝えたイングリッシュキャンプのキーワード「自分から」「仲間と協力」「英語で表現」について、振り返ることができた。「楽しかった」「英語で表現できた」という感想の他、「世界へ出かけて自分の力を試してみたい」「英語の授業では、自分から英語で話せるようになりたい」等自己成長を願う感想も聞かれた。



(3)事業の実施にあたって

<他団体との連携>

① 羽咋市教育委員会

平成31年3月より連携協定を結んでおり、本事業の内容等について前年度中に協議検討を行っている。今年度は、昨年度に引き続き、能力別活動及び他校との交流を行いたいとの要望を受けて、複数校で小学6年生と5年生に分かれて実施した。実施にあたり、市内小中学校に勤務するALT等と打ち合わせを行い、ねらい達成に向けた助言・協力をいただいた。

② 実施小学校

今年度は、主担当者が、打ち合わせ日時と場所を各校担当者と調整し、対面で打合せを行うことができた。各担当の先生方とプログラムの内容やタイムスケジュール等について確認した。また、活動プログラムの詳細は、各学校の実態や要望を取り入れながら決めた。セレモニーの司会やつどいの旗係、班分けや係決め等は、学校間の先生同士で相談してもらった。事前交流学习や当日出会った後等、ねらい達成につながる、より効果的な場面で決めることができた。

昨年度から導入している、タブレット端末を用いた「使って欲しい英語表現」の事前課題を、今年度も実施した。回答にかかる反応率が得点化されるため、楽しみながら取り組んでいた。91.6%の児童が「事前課題は有効だった」と回答した。昨年度に引き続き、90%を超えており、効果が見込まれている。学校の先生方からはワード文書でアンケートをまとめていただき、児童には、事前・事後アンケートをタブレットを活用して回答を得た。

③ 石川県国際交流協会(研究協力者:石津みなと)

児童が体験活動を通して、主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする展開の工夫について、オンライン相談を複数実施した。特に、安心して活動に取り組む環境や自分の考えや気持ちを英語で表現しやすくなる工夫について、専門家の視点からアドバイスをいただいた。第2回および第4回では、現地を視察され、直接アドバイスをいただいた。

<2日間を通した活動の工夫>

① 使ってほしい英語表現

昨年度から導入した PC 端末による事前課題。「使ってほしい英語の表現15」は、今年度から5・6年生共通の課題とした。今年度は、「自分から英語で表現」をねらいに据えたため、「How do you say ~in English?」を特に使ってほしい英語の表現と位置づけ、折に触れ、取り上げた。参加児童に対してとったアンケートでは、「事前学習は有効か」という設問に対し、2年連続で90%超となった。また、複数回取り組んだ児童は 75%超となり、手だての有効性と継続性が認められる。また、今年度は、英語専科教員と連携して、野外炊事では、5・6年生共通で Please check~.Please lend me~.を、敬語を学んできている6年生には、Would you~?(丁寧)、Could you~?(許可)を取り上げ、どんな場面で使えるのか具体的に知らせた。体験を通して使う場を設定したことにより、失敗を恐れず自信を持って使ってみようしていた。「自分から英語で表現できたか」という設問に対し、肯定回答をした児童のうち、85%が「出入国あるいは買い物・異文化理解」の場面で、また60%近くが「野外炊事」の場面で、自分から英語を使って表現できたと回答した。いずれも昨年度比15%の伸びである。この結果から、実感を伴ったスキルアップに手ごたえを感じていることが伺える。

ありがとう Thank you.	ごめん I'm sorry.	すみません Excuse me.	へえー Really?	なるほど I see.
いいね！ That's good!	大丈夫 No problem.	もう一度言って One says the please.	これは何？ What's this?	わかりません I don't know.
～しよう Let's ~.	助けて！ Help me.	はい、どうぞ Here you are.	どういたしまして You're welcome.	英語でどう言うの？ How do you say ~ in English?
調子はどう？ How are you?	～の次は？ What's next?	～はどこ？ Where is the ~?	～を貸して Please lend me your ~.	～の国はどこ？ What is your country's name?



② 自分から英語で尋ねたくなるワークシート、みんなで歌いたくなる英語曲リスト

児童用しおりの巻末には、世界地図を基に、国際交流員の国のあいさつや賞賛、承認、励ましの言葉などを尋ねて埋めるワークシートを添付した。How do you say ~in English?と尋ね、どんどんワークシートに書き込んでいった。各国のあいさつの違いや発音、日本との共通点に気づききっかけとなっていた。また、学校の英語の授業で歌っている英語の曲リストを提示した。世界の遊びをする際に、班全員で歌う曲を決め、仲間と同じ曲を歌いながら世界の遊びを心ゆくまで楽しんでいた。



③ ストーリー性があり、主体的に活動したくなるプログラムの展開

2日間を通して、児童一人一人が自分から英語で表現すること、仲間と協力してバターチキンカレーライスを作るために、数々のミッションをクリアすることに、意欲と見通しを持てるプログラムとした。導入では、iPadのiMovieを使ったPVを視聴することで、初めて参加する5年生も意欲と見通しを持つことができた。野外炊事をするために、食材を買う(各国ブース)、買うためには入国する(入国審査)、入国するためにはドル紙幣を得る(ミッション)といったひと流れはシンプルで分かりやすかった。「世界であそぼう」では、3文程度のルールを聞き取って、仲間に伝えるとともに、国際交流員等から教えてもらった世界の遊びを一緒に楽しんだ。どの活動でも意欲的に活動する児童の姿が見られた。また、課題を解決する場面では、相談したり、アドバイスし合ったりする姿もたくさん見られた。



④ 一人一人が自信を持って会話をするために

一人一人が国際交流員等と直接会話できる場を確保するために活動内容の工夫をした。

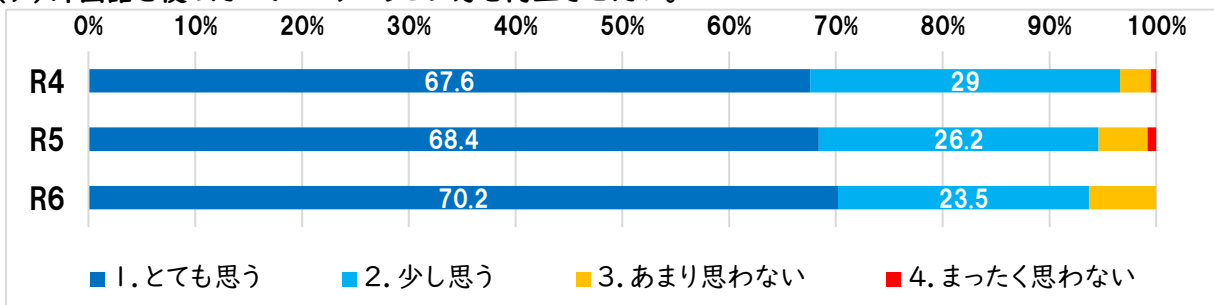
「現地の食材を探しに世界へ」「現地の食材を買い物しよう」では、買い物場面を想定し、買い物をする前に、ペアで練習をしたり、カルタやWhat's this?クイズ等をしたりして、英語表現や単語に慣れ親しんだ。そのため、自信を持って買い物をすることができた。Missionでは、「Saying the same, doing the difference.」「When is your birthday?」等仲間内で自己表出できるしかけを随所に入れることで、仲間とのつながりを生み、協力してこそクリアできるようにした。「Entry to a country check」や「Shopping Game」では、出入国審査や買い物を1人やペアで行った。初めは不安な様子の児童も見られたが、回数を重ねることで自信を持って会話する姿が見られた。各Activityで、一人5回程度は国際交流員等と1対1で会話する機会を設定することができた。「体験を通して自分から英語で表現できた」活動で、野外炊事と回答した児童は44.5%だった。

3 成果と課題

(1) アンケート結果

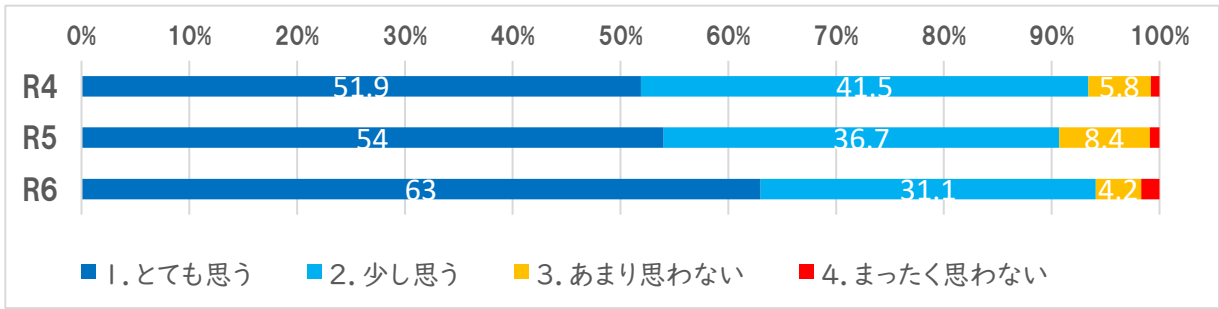
① 事業について

(ア) 外国語を使ったコミュニケーション力を向上させたい。



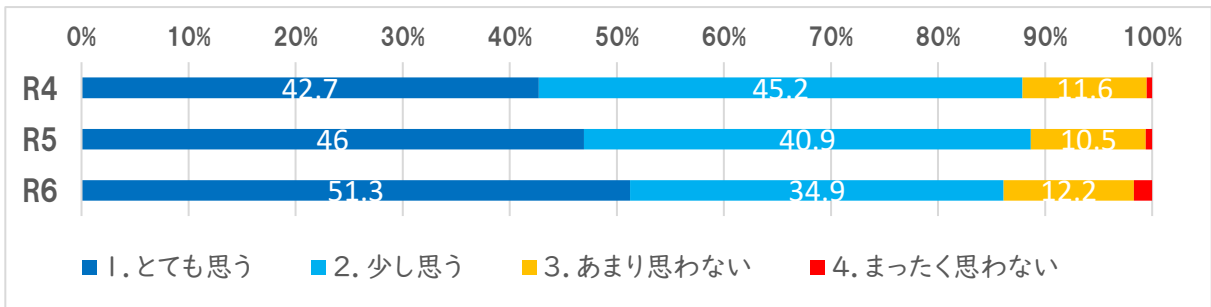
「とても思う」および「少し思う」をあわせた回答(以下 肯定回答)の割合が年々高まっている。羽咋市の5,6年生にとって、学校教育における英語力の向上と相まって、自らの英語力に磨きをかけたいと願う児童が増えてきているといえる。

(イ) 将来、社会や人の為になる仕事をしたい。



肯定回答の割合が年々高まり、本調査開始以来、「とても思う」（以下 積極的肯定回答）の割合が初めて 60%を超えた。羽咋市の5,6年生にとって、英語を使う必要感が醸成されている。英語でコミュニケーションをとることで、相手を知り、必要なものを得て、したい活動が展開されていく本プログラムが、英語で自分の考えや思いを表現することを通して、地域に貢献しようとする心情を育むことにつながっている。

(ウ) 日本人として世界に貢献したい。

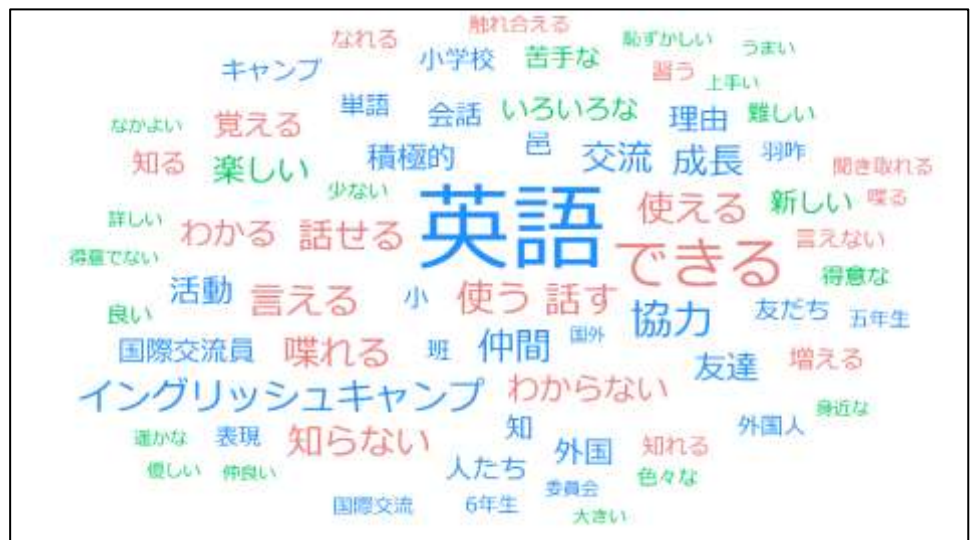


肯定回答の割合が年々高まり、本調査開始以来、積極的肯定回答の割合が初めて 50%を超えた。羽咋市の5,6年生にとって、英語表現がスキルの習得にとどまらず、世界に視野を向けて語学力を試してみたいという意欲が高まっている。また、国際交流員の国の文化を知ったことにより、改めて日本人としての誇りや自覚を新たにするとともに、多様な文化を認めていこうとする態度が少しずつ育まれているといえる。

(エ) キャンプを通して自己の成長を実感することができたか。

肯定回答の割合は 82.1%と 80%を超えた。その内訳を分析したものである。下記の表は、「テキストマイニング」という AI ローカルブラウザを使って、「自己成長」に関するすべての児童のアンケート結果の自由記述を言語処理し、頻出語や特徴語を抽出・分析したものである。

特筆すべきは、肯定回答をした児童もそうでない児童も「進んで英語を使って表現」に触れていることである。つまり、キャンプのねらいを強く意識していたことが伺える。また、「言える」「できる」「使える」「わかる」といった技能面での自己成長、「仲間との活動」「友達との協力」といった交流の面での自己成長、「苦手」「難しい」「わからない」といった困難に直面しても「楽しい」「聞き取れる」といった前向きな回答が目立った。困難な場面でも「仲間と協力し、自分から英語で表現するキャンプ」のめあてを達成するために、学びに向かっていたことが、この抽出・分析から読み取れる。



②外向き志向率、グローバル人材志向率

本事業では国際交流に対する意識を調査するために、外向き志向率及びグローバル人材志向率に関するアンケートを実施した。

<外向き志向率について>

外向き志向率とは、日本人参加者に対して、文部科学省が定めた調査項目「日本人として世界に貢献したいと思いますか」「外国の人との交流を通して自分の可能性を広げたいと思いますか」「交流した外国人と将来も繋がりをもちたいと思いますか」の3項目のアンケート結果を集計したものである。そのうち、肯定回答の集計から算出した本事業参加者の外向き志向率は、89%であった。(R4 88% R5 87%)

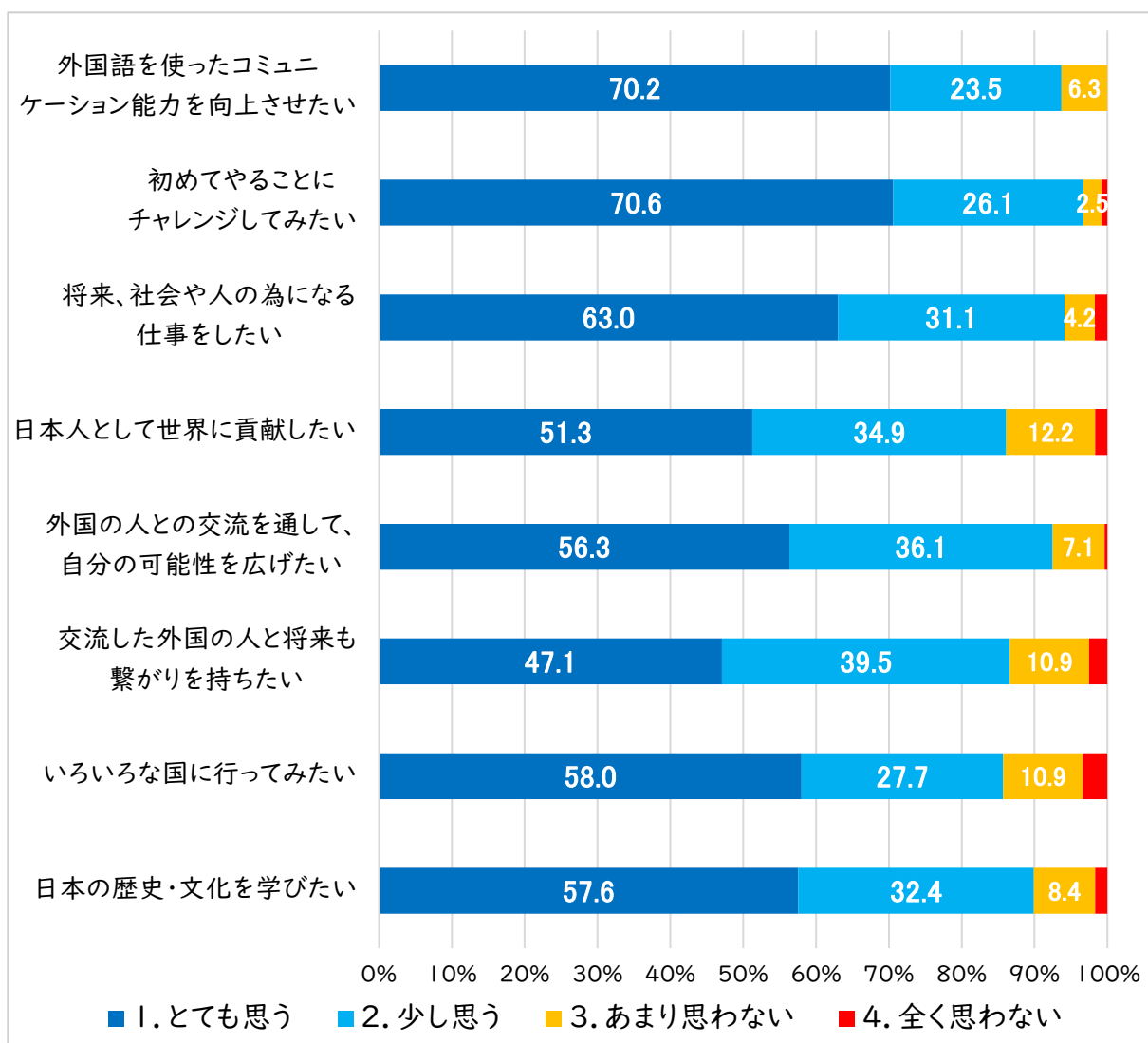
事前と事後の結果を比較すると、事前 87.8%、事後 88.5%とやや向上した。特に、「外国の人との交流を通して、自分の可能性を広げたい」の項目で、事前 95.9%、事後 96.7%とやや向上した。

<グローバル人材志向率について>

国立青少年教育振興機構では、上記の外向き志向率調査に加え、独自に語学力・コミュニケーション能力及び異文化に対する理解と日本人のアイデンティティー等を加えた8項目のアンケートを作成し、「グローバル人材志向率」として、平均80%以上の肯定的回答を得ることを目標に国際交流事業を実施している。

本事業における事業後のグローバル人材志向率は、91%であった。(R4 92%、R5 90%)

事前と事後の結果を比較すると、事前 90.6%、事後 90.8%とやや向上した。特に、「初めてやることにチャレンジしてみたい」の項目で、事前 90.2%、事後 92.4%と向上した。



③参加者の声(一部抜粋)

【全体】

- ・難しいことにチャレンジすると失敗して恥ずかしいと思っていたけど、イングリッシュキャンプで楽しく難しいことにチャレンジできました。(6年生)
 - ・仲間と協力して、活動ができましたし、英語が苦手だったけど、イングリッシュキャンプを経験したことで、日ごろの英語を頑張りたいと思いました。(6年生)
 - ・まだ自信を持って使えない英語があると分かったから、もっと話せるようになって、もっとコミュニケーションをとれるようにしたいです。(6年生)
 - ・みんなと触れ合えてよかったし英語の発音など向上できたのでうれしかったです。次のイングリッシュキャンプではもっといろいろなところで英語を喋れるようにしたいです。(5年生)
 - ・自分の仲間と一緒に協力できたのがとてもうれしかったし、班のみんながわからないことがあったら、違う班の友達が助けてくれたのが心に残りました。(6年生)
 - ・邑知小の子と仲良くなれてうれしかったし、仲間と協力して「○」(まる=輪)になることが大事だとわかりました。(6年生)
 - ・みんな協力してベッドメイキングをしたり遊んだり寝たり英語で話せたりして楽しかったです。(5年生)
 - ・自分から積極的に英語を使って、みんなが困っているときには自分から声をかけることができたし、チームのみんなも私が困っていたら助けてくれました。チームのみんなと仲が深まってとても楽しいイングリッシュキャンプでした。このことを活かして、これからは仲間と協力してどんなことでも積極的に行動したいです。(6年生)
 - ・仲間とお互い協力し合って、自分から英語を使ってコミュニケーションを取れたし、小学校最後のイングリッシュキャンプは、宿泊もできて忘れられない思い出になりました。(6年生)
 - ・他の学校の人と仲を深められ、協力してミッションにチャレンジすることができました。また、中学校で同じになるので他の学校との交流を増やしたいです。(6年生)
 - ・このイングリッシュキャンプで学んだ「来たときよりも美しく」や「みんなで協力する」ということを学校でも活かしていきます。(6年生)
 - ・羽咋小は「貢献」「協力」を大切にしているけど、イングリッシュキャンプはすごく「協力」をしないとご飯とかいろいろなことができなくなると気付いたから、「協力」をいっぱいしました。羽咋小でもみんなと「協力」して、自分から気づいて「貢献」をしたいです。(5年生)
 - ・リーダーとして周りの仲間のことを気かけられるようになった。(6年生)
 - ・このキャンプを通して、みんなで過ごすこと(風呂や睡眠)が楽しかったです。このキャンプから「仲間」って、ぼくたちが思っているより大切なんだと気が付きました。(6年生)
 - ・みんな協力することで仲も深まったし、英語の楽しさが改めてわかりました。(5年生)
 - ・It was great because I could make friends, cooperate with together, and use English. (5年生)
- わたしは、最初は少しだけ不安な気持ちがありました。例えば、「友達を作って一緒に楽しく遊べるかな」「英語をたくさん使うことができるかな」という不安な気持ちがありました。でも実際に参加してみたら、友達は作れたし、英語を使うこともできたし、とっても楽しかったです。特に「友達と協力するプレー」が多かったと思います。野外活動では友達と協力しておいしい「バターチキンカレー」を作りました。そのように「友達と協力するプレー」が多かったので、友達と仲良くなれたんだなと思いました。(5年生)
- ・このキャンプで英語をいっぱい使えるようになったので、今後はもっと英語で会話をしたいです。(6年生)
 - ・このキャンプを通して、自分の将来の夢に近づけたなと思いました。(6年生)
 - ・英語で少し喋れるようになったし、将来海外に行った時のために、英語の授業を一生懸命励みたいです。
 - ・今まで言えなかった英語が話せたので、英語への自信が持てました。次回はもっと英語をスラスラ言えるようになりたいです。(5年生)
 - ・私は、このキャンプを通して羽咋小の人と仲良くなったので、こうしたキャンプを通して他の小学校の人と もっと仲良くなれる企画をしてほしいなと思いました。(6年生)
 - ・自分で英語をどのように表現するかを考えたり、チームで協力してアクティビティをしたりすることができたので良かったです。また、いろいろなことに挑戦できたので、これからも挑戦を続けたいです。(6年生)
 - ・覚えた英語が増えたので嬉しかったです。いろんなことに挑戦して自分の限界を超えてみたい。(6年生)
 - ・私は英語を話すのが苦手だったけど、チームで協力して英語を読んでいると友達も増えたとし、英語を好きになれました。(6年生)
 - ・キャンプを通して、今のうちにたくさん英語の勉強をして、将来いろいろな国に行きたくなった。(6年生)

【Opening Ceremony/School Introduction/Closing Ceremony (5・6年生共通)】

- ・発音を意識することはできたけど、学校紹介以外あまり英語を使わなかったから、今後はそれを頑張りたいです。(6年生)
- ・少しの英語だけど英語をしゃべれたり、あまり人前で言ったりすることができないけど、朝のつどい等で前に出て言えました。後、友達もたくさん作れてうれしかったです。(5年生)

【現地の食材を探しに世界へ～Entry to a country check～(6年生)】

- ・現地に行つての食材集めなど、英語を使って協力することができました。これから、いろいろな国に行つて文化などを知りたいと思いました。(6年生)
- ・仲間と一緒に協力し合つてミッションの山を乗り越えてやっていけたし、最後の野外炊事で協力しておいしいカレーが作れてとてもうれしいです。(6年生)
- ・野外炊事では、同じ班の人たち(仲間)と一緒に、協力してバターチキンカレーを作ることができたのでこれからも仲間を大切にしていきたいと思います。(6年生)

【現地の食材を買い物しよう～Shopping Games～(5年生)】

- ・一番楽しかったのは、英語を使って買い物をする事です。仲間と協力することの大切さと、英語を使って買い物をする事の楽しさを知つて、嬉しかったです。(5年生)
- ・食材探しのときには、分かる英語を積極的に使つて、食品を探しました。英語の分かる範囲が広がつたので、これからはその英語を使って会話したいです。(5年生)

【世界で遊ぼう ～Become a game master!～(6年生)】

- ・いろいろな遊びを体験できたし、チームで協力して様々な英語を知れた。(6年生)
- ・ちがう班の人とも一緒に英語の歌を歌つて遊べたし、その班と、寝る前にも交流できました。(6年生)
- ・仲間と協力し、仲間と一緒に全力でチャレンジする楽しさに気付きました。(6年生)

【世界で遊ぼう ～Enjoy the game!～(5年生)】

- ・楽しかったことは、世界で遊ぼうです。理由はみんなと協力しながらできたし、たくさんの人とたくさんの英語を話せたからです。もっと頑張りたいことは、外国人と何でも話せるようにする事です。(5年生)
- ・世界の遊びをしながら、外国の文化を学んだので「知らなかった!面白い!!」と思いました。(5年生)

【野外炊事で世界を味わう～Presenting Recipes～(5・6年生共通)】

- ・野外炊飯では、同じ班の人たち(仲間)と一緒に協力してバターチキンカレーを作ることができたのでこれからも仲間を大切にしていきたいと思います。(6年生)
- ・新しい仲間とイングリッシュキャンプの野外炊事でうまくコミュニケーションを取れました。わからない英語があつたから、そのときは、知っている人に自分からもっと聞けたらなと思いました。(6年生)
- ・野外炊事での英語がとても心に残りました。今後は会話の中でも英語をもっと使いたいです。(6年生)
- ・バターチキンカレーを作っている時に、羽咋小の知らない子から声をかけられて友達になつてうれしかったです。(5年生)
- ・野外炊事で、仲間と協力して作ることができた。仲間と何かにチャレンジしたり、全力で遊んだりする楽しさに気づいた。これから、日常生活や学習にこのことを生かしたい。(5年生)
- ・野外炊事が一番心に残りました。焼くときに煙が目に入って痛かったけど、みんな頑張って上手に作れました。(5年生)

【スタッフ(国際交流員・学生)との交流】

- ・わたしは、英語は苦手だけど、他の学校の友達や国際交流員の人達とたくさん話すことができたので、前よりも他の国への興味がわいてきました。(6年生)
- ・外国の方々との交流を通して、できるだけ英語を使えたり、分からない単語も聞くことができた。(6年生)
- ・今まで知らなかった英語も外国人の人と触れ合つたからこそたくさん知れたし、もし外国に行くことがあつたら、学んだ英語を使ってコミュニケーションをとりたいです。(6年生)
- ・いろいろな英語や国際交流員の方の国の伝統文化をたくさん知れたので良かったです。(5年生)
- ・外国のお話を聞いて興味を持ちました。またいろんな外国のお話を聞きたいです。(5年生)
- ・英語で外国人の方々と話せたし、5つのルールを守ることができてよかったです。(5年生)

④引率者の声（一部抜粋）

- ・各校が自分の学校について、大勢の前で英語でプレゼンする場面はとてもよい経験だった。（6年生）
- ・自己紹介やゲーム、ミッション等を通して、学校同士が打ち解け合い、一気に仲を深めていた。（5年生）
- ・英語を伝えるよう工夫を凝らした活動が多く、英語を使おうとする場面がたくさん見られた。（6年生）
- ・いろいろな国の交流員の方と活動を通して関わり、多様な国の文化にふれることができた。（5年生）
- ・生活体験を通して、基本的な生活のルールを身につけたり、見直したりするきっかけとなった。（5年生）

(2)成果

- ①外向き志向率が89%、グローバル人材志向率が91%と高い数値を示していることから、本事業の活動プログラムは児童の外国語でのコミュニケーションに対する興味・関心を高めるとともに、「外向き志向」向上に有効であったと言える。
- ②複数の小学校合同での実施により、体験活動を通して近隣の同じ小学生と仲が深めることができた。同様に、児童自ら、進んで英語で国際交流員へ質問するなど、主体性が育まれたと考える。
- ③能力別班編成としたことは、児童や引率者にとっても支援の具体がイメージできて良かった。学校間での事前打合せも密に実施することができた。
- ④「使ってほしい英語の表現」を各小学校で事前指導したり、タブレット端末を使って反復して取り組んだりしたことにより、「事前学習が有効か」という設問に、90%超の児童が有効であると回答した。
- ⑤ゴールイメージとプロセスに見通しを持ち、ストーリー性のある活動プログラムにしたことで、どの子も意欲を持続させて、取り組むことができた。また、仲間と協力する場面を意図的に設けたことで、仲間意識が高まり、同僚性が育まれた。
- ⑥児童が国際交流員等と1対1で会話する機会を意図的に設けたことで発言の機会が保証された。これにより、英語でのコミュニケーションに達成感を感じ、自信を持つことができたと考えられる。

(3)課題

- ①協力団体における国際交流員の確保、決定が事業実施直前となってしまった。そのため、打合せが十分ではない国際交流員が複数名おり、当日の連携が不十分な場面があった。
- ②能力別班編成のメリットはありつつ、人間関係を重視した班編成の視点も欠かせない。能力別班編成における支援の効果について、さらに明らかにする必要がある。
- ③交流の家で行われる事業が、各学校での授業にどのような効果をもたらすのか、児童にどんな変容があるのか、学校の教員と共有し、さらに具体的に必要がある。
- ④事業の実施が該当時期では、学生が休業期間ではないため、確保が例年になく厳しく、直近のボランティア養成セミナー受講者へも参加を働きかけたが、難しかった。同様の事業を同規模で実施する際は、時期と実施内容の再考が欠かせない。